

郡山区域再評価第1回第三者委員会 議事概要

1. 実施日 平成20年6月13日(金)

2. 場所 福島県郡山市

3. 出席者

第三者委員	岩崎 由美子	福島大学行政政策学類准教授
〃	木村 美智子	東北文化学園大学科学技術学部准教授
〃	中嶋 康博	東京大学大学院農学生命科学研究科准教授
〃	松野 義廣	(財)福島経済研究所常務理事
〃	溝口 勝	東京大学大学院情報学環教授

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局企画部事業計画課事業総合調整室長

〃 整備部農地整備課課長補佐

(独)森林総合研究所森林農地整備センター農用地業務部長 ほか

4. 現地調査の概要

工事実施中、一部区間営農車両に供用開始した農業用道路及び区画整理を実施した団地の現地調査を行うとともに、受益者から農業経営の状況、事業の効用発揮の状況について聞き取りを行った後、第三者委員による意見交換を行った。

5. 第三者委員会の概要

(1) 委員長選出

委員長には、全会一致で中嶋委員を選出した。

(2) 8月の公表に向けた今後の委員会の運営

第三者委員会の今後の進め方については、今回の委員会の意見・指摘を踏まえ、事務局で議事録を整理し、再評価案、基礎資料を準備して、次回7月23日の第三者委員会で意見のまとめを行うこととした。

今回の議事録は、ホームページにより公表するとともに、次回の第三者委員会からは公開とし、取材、傍聴ができることとした。

(3) 意見・指摘等

総事業費の減額内容についての質問に対して、事務局より事業内容の見直しによる総事業費の低減、道路線形の見直し等によるコスト縮減を図った旨説明された。

総事業費の大幅減にもかかわらず、現計画と再評価時の費用対効果分析結果が殆ど変わらないことについての質問に対して、事務局より効果算定方式の変更、効果発生面積の減少及び家畜排せつ物処理法の施行に伴う堆肥施設の見直しを行った結果、営農に係る走行経費節減効果が下がったことなどによる旨説明された。

受益区域の社会情勢の変化については、農林業センサスにより郡山市及び三春町全体について示しているが、可能なものは集落データを利用した整理が望ましい。

環境配慮の取り組みは評価できるが、事業完了後も継続的なモニタリングができるよう、地域の自主的な取り組みを促す仕組みを検討されたい。

農業用道路の計画交通量については、次回さらに詳細な算定の考え方を説明されたい。

耕作放棄地の解消、高齢者の活躍、次世代の定住、伝統行事、体験農業を通じた都市部との交流など、既に発現しているにもかかわらず定量的把握が困難な効果が認められることから、これらの効果についても評価書に記述されたい。